

益川敏英「憲法9条を守ろう、どんな小さな声でも 集まれば大きな声になる」



インタビューに答える京都産業大学
益川塾塾頭の益川敏英さん
(1940年～2021年)

**国家は巧みに国民すべてを取り込み、
精神動員をする**

戦争に対し、一人一人の市民はどのように向き合うべきなのか。国家権力の巨大な意志に対し、どのように相對していけばいいのか。2008年ノーベル物理学賞を受賞し、記念講演では反戦演説を行った理論物理学者、益川敏英さん（75）に聞いた。

「不謹慎だ。アカデミックな場にふさわしくない」。箱根峠の向こうから、ある学者が批判しているとのうわさが

聞こえてきたんです。ストックホルムでのノーベル賞の授賞式（2008年12月）に出発する前です。世界中の人々が集まる記念講演で、太平洋戦争での実体験を話すつもりでした。それを「晴れの舞台で、話するようなことではない」と苦言を呈しているらしい。何を言ってやがるのだと憤激しました。（『毎日新聞』2015/8/14）

「科学者である前に人間たれ」の言葉を胸に

ノーベル賞を授与された研究は、人類の発展のためにも殺人兵器にも使用可能という両刃（もろは）の技術とっていいのです。科学に携わる人間ならば、そのことを身に染みて感じていなければいけないでしょう。

わたしがああるテレビ番組で特定秘密保護法に反対する意見を述べたら、すぐにわたしの研究室に外務省のお役人が来て、「これは先生が考えるような危険なものではございません」と、い

ろいろ説明を شدしたのです。そのとき、わたしはオッペンハイマーの話をしてお引き取りいただきました。

坂田昌一（1911年～1970年）先生の言葉は、ここに貼ってあります。「科学者は、科学者として、学問を愛するより以前に、まず人間として、人類を愛さねばならない」。坂田先生はそれを堂々といいきります。すごい胆の座った先生でした。（月刊『住民と自治』2016年2月号より）

ロバート・オッペンハイマー（1904年-1967年）：第二次世界大戦中のロスアラモス国立研究所の初代所長としてマンハッタン計画を主導し、「原爆の父」として知られる。戦後はアメリカの水爆開発に反対したことなどから公職追放された。